

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 2階		
所在地	京都市南区上鳥羽奈須野町23		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成31年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690500042-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690500042-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノロ上ル梅津町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成30年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(心と心でお一人お一人の気持ちに寄り添って)を、平成30年度のスローガンとした。この思いを持って満足していただける支援を心かけている。 お一人お一人の人生の終末をご一緒させて頂く事に感謝こめて、支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市南区上鳥羽の地に、大阪に拠点を持ち介護事業をはじめ他方面で活躍している有限会社「さざなみ」が平成25年に地域密着型介護事業所として、小規模多機能型事業所と3ユニットのグループホームを開設された。周囲は畑に囲まれた静かな雰囲気の中にある。本社の理念に沿って、事業所のスローガンを大切にして、日々の支援に取り組んでいる。一人ひとりの入居者を大切に支援すると共に、働き易い職場づくりを目指している。地域住民との関係も開設以来、地道に努力を重ねてきた結果良好な関係が出来てきている。隣人から収穫した「サツマイモ」を届けて貰い「芋ご飯」を楽しむ機会も得た。外国籍の職員が在籍し、母国のおやつを作って入居者を喜ばせている。裏庭を活用して、家庭菜園や花づくりを楽しむ機会も設け、日常生活に変化を付けている。入居者が来訪者を優しい笑顔で迎え入れている姿から、日頃の職員の支援状況を垣間見る事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時理念を唱和している。理念にある(報告・連絡・相談)特に報告については徹底している。	さざなみグループとして「楽しく、自由に、ありのままに」と3項目を理念として表明している。更に、報告・連絡・相談、目配り・気配り・緊張感をもってサービスを提供することを大切にしている。事業所としても今年度のスローガンを「心と心でお一人ひとりの気持ちに寄り添って」として、全職員が共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動・夏祭りに積極的に参加している。上鳥羽小学校の見守り隊にも協力している。上鳥羽地域の地域包括ケアにもメンバーの一員として参加。かけはしの会をさざなみで行なった。	地域の一員として自治会に入会している。回覧板で地域の情報も得て、地域のイベントなどに参加して交流に努めている。地域の夏祭りでは、輪投げや射的などのコーナーを受け持っている。小学校の子どもたちの安全を守る「見守り隊」にも参加している。開設以来、徐々に地域との交流の機会が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かけはしの会を実施。認知症カフェを行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日常生活を報告を行い、意見を頂き実施。次月に報告している。週1回でも施設で食事をつくれなにかの提案があり、実施している。	会議には、地域包括支援センター職員・近隣のデイサービス事業所職員・家族・後見人と職員が出席している。事業所の近況報告と共に事故に関する経緯・原因・対策など詳しく説明している。出席者からも、事故改善に関する意見などが出されて理解を深めている。事業所としてもスローガンに沿った支援を提供していくと「思い」を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治会に参加するなど、交流を深めて行っている 区役所からは、災害時の避難場所としてほしいとの依頼があり、受け入れた。	行政の担当者には、会議録など届けたり、有事には報告・相談しアドバイスを得ている。災害時の避難場所の依頼があり、双方での関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会を設置。研修会を行いながらスタッフで共通認識している。	さざなみグループとして「身体拘束廃止の指針」を作成している。事業所に於いても身体拘束ゼロ委員会を設け、定期的に委員会や研修を行って、全職員が身体拘束・虐待行為について理解を深めるように努めている。	

京都府 グループホーム さざなみ京都南 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	かなりの意識をもっている。8月に拘束があった。すぐに介護監査課に出向き報告を行い指導があった。どんな小さなことでも、入居者様の尊厳を守れるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の研修でも取り上げている。尊厳。自立については共通認識している。後見人を必要とされる入居者については区役所に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。入居者様のお気持ちを、尊重している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が、来所されたときは、必ずお声かけしお話している。スタッフも同じ。	入居者からの意見・要望は、日常生活の中で聞き取っている。家族などからは、運営推進会議や来所時に聞き取っている。「穏やかになった」と喜びの声を聴かせてもらったり、勤務体制の事などもあり、聞き取った意見などは記録し、職員で話し合っ共有して改善に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・フロア会議で意見交換を行っている。	職員からの意見は、申し送り時や日常の業務の中で話し合っている。リーダー会議やフロア会議も情報・意見交換の機会にしている。報告・連絡の件や記録方法などの意見がでており、解決策を話し合い改善に繋げられるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが安心して、働ける様に、特にシフト面では心配りしている。やりがいがあるように、研修会等に積極的に参加してもらっている。介護についての悩みがあるスタッフには面談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っている。11月からはさざなみで初任者研修を行う事になり無資格の2名が受講する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社においては毎月行われている。が、なかなか参加できていない。今後の課題である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話やすい雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の今の、困り事に耳を傾ける様努力している。話やすい雰囲気作りにと気遣いはしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の希望に添えられる様、意見交換をしっかりとおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本情報をもとに、入居者様を知る事で、寄り添える様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族様・入居者様との楽しい時間を過ごして頂き、毎日の状況もお伝えしながら、家族様に協力して頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時以外は、あまり出来ていない。これも今後の課題。ドライブレクなど、企画して行きたい。	今までの馴染みの関係は、お互いに高齢となり来所される機会も少なくなっている。地域のイベントに参加したり、ボランティアの方達・訪問美容の美容師・ユニット間での交流から気の合った人と出会ったりして、新しい馴染みの関係が徐々に出来てきている。近在の公園も馴染みの場所になってきている。新しい馴染みと共に思い出づくりにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	あまり、環境を変えずにフロアーでの席など の工夫をしている。スタッフが同席して入居 者様同士の橋渡し役も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の後も、家族様からは、連絡をして下 さっている。今日誕生日を迎えた・個室なん やけど費用に係る。などの相談もあったりし ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	お一人お一人の、思いを大切にしている。 困難な場合は、家族様にも協力頂いてい る。	初回面談で、本人・家族などから生活歴や心 身状況・趣味・今後の生活の要望など聞き取 りアセスメントシートに記録している。入居後 は日常の生活の中で「その人の思い」を汲み 取って、職員間で共有して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	基本情報を確認。今までの生活(癖・生活パ ターン)パターンを基本としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	努めている。気づきを大切にしている。ス タッフ同士の連携。共通認識に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	まだまだ、課題はあるがフロアー会議開催 で意見交換し合っている。(ケアマネー ジャーとも相談。今、何を必要としているか。 今の支援は適切か等など)	フロアー会議で情報・意見交換を行って、更に サービス担当者会議でモニタリングを行って いる。介護支援専門員・管理者・介護職・看 護職・本人が出席している。それぞれの立場 で検討し、現状に即した介護計画を作成して いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、再三研修会を行いスタッ フ間で情報の共有に努めている。記録につ いてはかなり改善できてきている。		

京都府 グループホーム さざなみ京都南 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行っている。お一人おひとりの状態を朝の申し送りであったり、気づきの報告を必ず行うことしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りに参加したり、さざなみで行っている認知症カフェにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	吉祥院病院との連携で、週1回の定期往診・臨時往診を行っている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を尊重しているが、協力医療機関から定期的に往診を受けている。その他、精神科など専門医に通院している入居者もおられる。希望により訪問歯科の受診と共に口腔ケアの支援も受ける機会を設けている。職員も口腔ケアの指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の様子を伝え、健康管理には注意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室と、情報交換を行っている。環境を変えない事からも、出来る限りの早期退院を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人様・ご家族様と話し合いを行っている。終末期ケアについて施設内で研修も行っている。	契約時に、重度化や終末期の支援方法を話し合っている。希望により、事業所での看取りに応じている。職員に対して研修を行い、円滑に最後の時間を穏やかに過ごせるように努めている。最後は、エンゼルケアまで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事前訓練は出来ていない。緊急時の対応については、フロー事に掲示している。研修会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施。スタッフ・入居者様参加されている。	消防訓練は、消防計画に従って年2回消防署の協力を得て実施している。職員と共に入居者も参加して有事に備えている。消防署とは緊急自動連絡装置を設置している。館内外の様子をテレビカメラで確認しているが、管理は本社の役員になっている。備蓄に関しても、日常的に使用する食料品や衛生用品を置いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お声かけさせて頂く時などに、失礼はないか心にかけている。(特に拘束用語になっていないか?)	今年度のスローガンと共に「職員の心がまえ」の中にも、入居者の尊厳について挙げている。職員は、一人ひとりの「思い」を大切に支援に取り組んでいる。プライドを傷つけないように、プライバシーを損ねない様に、言葉遣いや声掛けにも留意している。特に排泄や入浴時には、羞恥心を抱かせない様に気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、入居者様と接しながら、会話のなかで何を希望されているのか掴むように努めている。 支援中、こちらから決めてしまわず、選択しただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の出来る事を把握して、出来るだけご自身に行って頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室から出られる時は、髪を整えるようにしている。洋服選びにも、ご本人様のご希望を尊重するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや・片付け・消毒等一緒に行っている。	入居者の残存機能を考慮して、主菜はクックチルを利用し、各ユニットで炊飯と汁物を作っている。誕生日会には、大好物の「握り寿司」を楽しんでいる。フィリピン出身の職員がフィリピンのお菓子をおやつに出して喜ばれる事もある。隣人の住民から収穫した「さつまいも」を貰い、芋ご飯にして季節を楽しむ機会もあった。職員と会話しながら食事を楽しんでいる光景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量について記録している。異常に気づいたら看護師に報告している。お一人お一人の好みなども、意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士との連携の下で、口腔ケア時に口腔内の状態を確認して報告・指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本、座位がとれる方はトイレでの排泄としている。排泄チェック・記録を行い尿意・便意のない方の排泄パターンを把握。おこえかけしている。	排泄パターンを記録し、適時トイレへの声掛けや誘導を行って、トイレでの排泄に繋げている。その方の状態で、リハビリパンツにパットを併用して気持ちよく過ごされるように下着の選択をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量・食事量の把握。朝食にバナナ・ヨーグルトを食していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調によって入浴サイクルをかえている。あくまでもご本人様の希望に寄り添っている。	その日の体調や気分を考慮して入浴を決めている。現在は、特に入浴拒否をされる方もない。気持ちよく入浴タイムを過ごしてもらえ様に、職員とおしゃべりしながらゆっくり・ほっこりして貰っている。ゆず湯も楽しい入浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活パターンに、合わせている。無理に入床してもらわない様に、心かけて、気持ちよく入眠していただける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは薬情報について把握する事としている。異常に気づいたら、報告するように共通認識している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調などを、確認しながら、掃除・洗濯たたみなど、お手伝いしてもらっている。		



京都府 グループホーム さざなみ京都南 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今の所一部の方にしか、出来ていない。これも今後の課題である。是非、実行したい。	今夏は異常な猛暑日が続き、日常的な外出は厳しかったが、裏庭で家庭菜園を楽しんで貰った。野菜の収穫の後は、花を楽しんでいる。気候が良くなれば、近在に公園が二つあるので散歩ができる。通院の帰りを利用して寄り道をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	珈琲や買い物時にお渡ししている。施設でおこずかいの管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族様に、電話したいのご希望があればお取次している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	失礼(幼稚園の様な)のない範囲で、季節を感じて頂ける飾りつけを入居者様と、一緒に行っている。	広い廊下の奥にリビングダイニングがある。ここも広い空間があり、窓から高速道路を走り去る車が見られ、孤立感を感じられない。適宜テーブルを配し、食事や、レクリエーションで塗り絵をしたり作品作りをしている。車いすの入居者も椅子に座り直し食事している姿があった。廊下の手すりを持ち歩行訓練を自発的に行っている入居者もあり、徐々に歩行の改善が見られている。適度な照明があり、不快に感じるような音や臭いはなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置いたり入居者様同士の憩いの場作りをしている。1階でコーヒー・カラオケを楽しめる場所も新しく作り、ほっこりとした時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、お持ち物の制限はせず自由に使っていただいている。	各居室のドアには、大きく名前を貼り出して、それぞれ個性的な装飾をしていて親しみを持つように工夫している。室内は、思い思いに家具を配して居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場、自室がわかる様に案内板をつけている。		